



ここでは、かつて鈴木鎮一先生がレッスンで使われた独特な表現や用語を取り上げ、その内容を先生の言葉とともにお伝えします。前回、「意欲づくり」が一にも二にも大事とお伝えしましたが、今回は能力を高めるための、とっておきの訓練法をお知らせしましょう。その方法を、鈴木先生は「加え算式訓練法」と名づけられました。

②② 加え算式訓練法

生徒 鈴木先生、妹がおしゃべりであんなさくて、おけいこができません。

鈴木先生 そうかね。何歳の妹さんがいるのですか。

生徒 5歳になりました。

鈴木先生 そのくらいになると、4000くらいという言葉が自由自在に話す高い能力を身につけています。

生徒 (ノゴイ！)

鈴木先生 どうしてかというところ、妹さんは、覚えた言葉を次から次に加えながら、しかもその全部を毎日訓練して身につける教育を自然に受けてきたからです。

生徒 僕たちも、そうやって育ってきたのですか？

鈴木先生 その通り。能力が高くなると、さらにまた新しい言葉が加えられ、その速度も増していきます。言葉を覚える嬉しさもあるから、それまで覚えた言葉に新しい言葉を追加しつつ、毎日繰り返し返すわけです。それが訓練になります。

生徒 人間は、さすがですね。
鈴木先生 先生は、この訓練法を「加え算式訓練法」と名づけ、言葉だけでなく、毎日のおけいこでも応用できると考えました。5曲習った生徒は、家で毎日その5曲をお手本のCDに合わせて繰り返し弾きます。すべて、もう弾ける曲ですから楽しく弾けますし、優れたお手本に合わせて弾くことで、優れた演奏の能力も自然と身につきます。

生徒 先生、「音を立派にする」という訓練ですね。

鈴木先生 その通り。いつでも弾ける曲を繰り返し練習すること、音を立派にする。その高い能力がついていることを確認してから、新

い曲の練習をすることになります。これが家庭での練習メニューの基本です。

生徒 (カンパリマス！)

鈴木先生 ここで大切なのは、なんでも加えればよいというものではありません。新しい曲ばかりを追いかめると、今までの曲があるそかになりがちです。先に進みすぎることには、かえって危険です。それまでに膨らんでいた能力をしぼめる結果になることだってあります。加えるタイミングは、それまでの言葉や曲が「やさしく」感じられるかどうか、に尽きるでしょう。能力が育っていると目の前の曲が「やさしく」感じられるのです。AができてBができて、ABができてCができる、ABCができてDができる、というように、能力とは、それまでに身についた能力をすべて含みこんで、より高い新たな能力の獲得へと、絶え間なく突き進んでいくものなのです。それでは、おけいこを始めましょう。

夏期学校期間中の、たくさんのおけいこからも、新しい発見がありました。それらの一つひとつが、能力を高める大きな推進力に変化していきました

